

2019年1月

第29回(2018年度)タカシマヤ文化基金受賞決定

2018年11月12日(月)に行われました公益信託タカシマヤ文化基金運営委員会において、第29回タカシマヤ美術賞受賞者が決定いたしました。本年度の美術賞受賞者は陶芸の稲崎栄利子(イザキエリコ)さん、現代美術の金氏徹平(カネツテッペイ)さん、現代美術の田中功起(タナカコキ)さんの3名。

団体助成は、茨城県近代美術館、洞爺湖芸術館の2団体です。なお贈呈式は、2019年1月21日(月)午後6時より、日本工業倶楽部3階大ホールにて開催いたします。

タカシマヤ文化基金について

弊社はこれまで、豊かな生活文化の創造に貢献するため、「生活に美を、潤いを」を標榜、明治42年に美術部を創設し、和・洋問わず芸術作品を世に紹介して参りました。

近年国際化や情報化の進展に伴う社会環境の変化により、精神的・文化的な豊かさがより求められるようになる中、弊社は有能な作家の発掘支援と豊かな芸術文化の創造をめざし、平成2年に「公益信託タカシマヤ文化基金」を設立し、新鋭作家個人への助成、および美術文化の発展に寄与した団体への助成を行っております。毎年「タカシマヤ美術賞」として作家個人には200万円、そして団体に対しましては総額200万円を上限とした支援を行っております。

I 『タカシマヤ美術賞(助成金 各200万円)』

● イザキ エリコ 稲崎 栄利子<陶芸>



稲崎栄利子さん



現像 2018年



念力Ⅱ 2018年

1972年兵庫生まれ、1995年武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科卒業、1997年京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻陶磁器修了。1993年朝日現代クラフト展優秀賞受賞後多くの受賞を経て、2015年現代茶湯アワード2015大賞、2018年第13回パラミタ陶芸大賞展大賞受賞。2017年「驚異の超絶技巧！明治工芸から現代アートへ」（三井記念美術館、他巡回）出展。稲崎さんの作品は、僅か数ミリの極小パーツを数百～数千個ほど集積させて一つの形態を作り上げるもので、完成までに1年以上かかるものも多い。その繊細で細やかな果てしない反復作業の末に、有機的生命感に満ち溢れた独創的なオブジェが紡ぎだされているといえる。

カネウジ テツペイ
●金氏 徹平 <現代美術>



金氏徹平さん



SF(Summer Fiction)2018年 撮影:木奥恵三

1978年京都生まれ、2001年京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒、2003年同大大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。作品発表の場は国内外で数多く、2009年横浜美術館史上最年少個展作家としての「溶け出す都市、空白の森」開催後、シドニー、上海、台北等の個展に続き、国内でも2016年「金氏徹平のメルカトル・メンブレン（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館）」、2017年「記号は記号ではない（上野の森美術館）」等を開催。2017年東北リボーンアートフェスティバル等地方創生事業にも参画し多く



の作品を精力的に制作している。金氏さんの作品は、身の回りのプラスチック容器やフィギュア等を素材に、部分をくりぬき繋ぎ合わせ主観的な構成の意図を配した意想外の組み合わせを重視したもの。近年は舞台・音楽・文学・建築などの表現者と共に実験性の高い制作法を試み表現世界を拡張させている。現在京都市立芸術大学彫刻科専任講師。

tower(THEATER)2017年 撮影:守屋友樹

タナカ コオキ
●田中 功起<現代美術>



田中功起さん



Vulnerable Histories (A Road Movie) 2018年

プロジェクトの記念写真



Vulnerable Histories (A Road Movie) 2018年

プロジェクトの記念写真

1975年栃木生まれ、2000年東京造形大学造形学部美術科絵画専攻卒、2005年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了後、2006年までポーラ美術振興財団の助成およびフランス政府給費留学生としてLe Pavillon (パレ・ド・トーキョー)に参加しパリに滞在。また文化庁新進芸術家海外留学制度(推薦:山本和弘氏)にてロサンゼルスに滞在制作。国内外で個展、グループ展の開催多数。

田中さんは、2013年に第55回ヴェネツィア・ヴィエンナーレで特別表彰を受賞、2015年にドイツ銀行が選定するアーティスト・オブ・ザ・イヤーを受賞するなど、日本だけでなく海外からも最も注目されるアーティストの一人であるといえる。田中さんの作品の特徴は、「リレーショナル・アート」「ソーシャリー・エンゲージド・アート」の文脈に位置づけられる作家として、現在はワークショップ形式の構成とそれを撮影した映像による作品を展開している。

Ⅱ 『団体助成（助成金 2団体で200万円）』

○茨城県近代美術館

茨城県近代美術館では、2007年より機会あるごとに県内のコレクター照沼毅陽氏から409点にのぼる版画作品の寄贈を受けている。これらの作品は約80名による日本人作家の作品からなるもので、戦後の日本版画の歴史をたどる貴重なコレクションといえる。

一方個人宅で長年にわたり保管されてきたため、作品にはシミや変色、カビ痕等汚れが目立ち状態のよくないものが多い。今後より多くのお客様に良好な状態で作品を公開するため、この度の助成を有効活用し、作品の修復および額装改良作業を進めることに対し助成を行う。

○洞爺湖芸術館

洞爺湖芸術館は北海道虻田郡洞爺湖町の旧村役場を改装し、2008年に芸術館としてオープン。現在所蔵する美術品は旧洞爺村が収集・所蔵していたもので、今後これらの作品を広く町民や地域住民に公開し、地域の文化活動や創作活動に資することを目ざしている。

この度、洞爺湖芸術館開館10周年ならびに、北海道を代表する彫刻家砂澤ビッキ氏没後30周年記念事業を行うにあたり、同館コレクション全容の正確な把握と図録作成および砂澤氏に関する資料の調査整理、補強修復とデジタルデータ作成に対し助成を行う。

以上